

目次

[エッセイ]	
佐藤 真一	歴史学への小径 1
[論文]	
辻 絵理子	オリーブ山というトポス —詩篇写本に描かれた使徒言行録サイクル— 16
山中 良子	ビザンティン中期の錦 —オーセールとブレッサノーネの事例から— 30
舟橋 倫子	12世紀ベルギーにおける修道院と周辺社会 —アッフリゲム修道院とブリュッセル地域— 48
益田 朋幸	ビザンティンの単廊式バシリカ聖堂におけるキリスト伝図像の配置 66
小野 賢一	慣習律にみる隠修参事会制の構造 —オーレイユの律修・在俗併存の問題（13世紀）— 79
武田 一文	死と生の間で —ポロシュキ修道院「キミシス」における感情表現について— 92
黒田 祐我	文明間を往復する使節 —中世後期カスティーリャ王国とナスル朝グラナダ王国間の事例を中心として— 107
菅原 裕文	ビザンティン聖堂の儀礼化研究序説 —後期ビザンティン聖堂（13～15世紀）における儀礼化の進展— 123
深田 麻里亜	ヴィッラ・マダマのアトリウム浮彫《パンの懲罰》 —ジョヴァンニ・ダ・ウーディネ研究への一寄与— 145

永本 哲也	1534年2月下ライン地方における宗教改革思想・再洗礼主義の伝播 —ヤコブ・フォン・オッセンプルクによるミュンスター再洗礼派の宣教分析を通じて—	161
高津 秀之	手術台の上のルターと宗教改革者たち —ヨハネス・ナースの対抗宗教改革プロパガンダ—	178
青柳 かおり	18世紀におけるスコットランド主教制教会と祈禱書	194
発表要旨		207
活動報告		216
投稿規程		217

表紙のモノグラムは EKΦPACIC（エクフラシスの中世風表記）の組合わせ文字です。